

行政視察報告書

委員会名（会派名）	チームつばめ	報告者	小林 由明
視察日程	令和元年7月30日（火）		
調査事項 及び 視察地	① 新潟県柏崎市 ・「ひきこもりの取り組みについて」 ・「スポーツ推進について」		
参加議員（委員）	小林 由明、岡山 秀義、柴山 唯、（ほか 弥彦村議1名）		
①	<p>【調査目的・内容】</p> <p>ひきこもりの取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりの背景や社会的影響について ・施策と予算と目指す成果について <p>【所感】</p> <p>柏崎市の取り組みとして興味深いのは、福祉、子育て、健康推進関係各課が「柏崎元気館」に集約され、情報共有をはじめ保健師や社会福祉士等へのつなぎが速やかに行われており、効果的効率的に事務事業が展開されていることである。市役所の出先機関というより、「こちらが福祉関係の本庁となっている」認識とのことで、職員間でも、この体制によって職務が円滑におこなわれていることが評価されているとのことだった。</p> <p>また、教育委員会と福祉関係課との連携も濃密であり、成果を導くためには、各種協議会や校長会などを頼りにすることなく、指導主事と福祉関係職員が自ら学校などへ出向き、効果的な事業展開ができるよう説明などをおこなっているとのことであった。</p> <p>柏崎市に限らず、福祉関係課と教育委員会が連携強化を進めていくべきだということは、ここへきてあえて指摘するまでもないが、職員自ら自信をもって「濃密な連携」といえる関係が燕市にはあるようには感じられないのが実際である。</p>		
	<p>【調査目的・内容】</p> <p>スポーツ推進について</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) スポーツ推進にあたっての事業と予算について <ul style="list-style-type: none"> ・主要事業と予算について ・ブルボン水球チームとの関りが、どのように行われているか (2) 市内体育施設の管理手法について <ul style="list-style-type: none"> ・「公益財団法人かしわざき振興財団」との連携事業などはどうなっているか (3) スポーツ推進の観点で、東京オリンピックとの関りはあるか <p>【所感】</p> <p>燕市では、体育協会とミズノが共同で指定管理を担っており、ミズノが契約する一流選手と燕市の子どもたちやスポーツ関係者との交流が実現している。柏崎市には、世界的に有名な水球チームが存在していることに加え、体育施設等が地元団体による柏崎振興財団によって指定管理が担われていることから、燕市同様に指定管理者を通じた選手と住民との交流や、オリンピックを通じたスポーツ推進が行われているのではないかという推測をもって今回のレク依頼をおこなった。</p>		

結果的には、指定管理とスポーツ推進事業については密接な関係性が見いだせなかつたが、市として、柏崎のスポーツの根底を支える、市内38地区にある体育協会への補助金交付や、「水球のまち」推進事業を通じてアジア圏における「水球の聖地」を目指すとともに、ホストシティの取り組みを通じて柏崎市の国際化を推し進めるべく、比較的大きな予算措置が講じられていることが分かつた。

さらに、柏崎市基本計画 第三編 第四章中には「全国に通用する競技者を育てる」との題目があり、「学校部活動への支援を強化し、全国や世界で通用するトップアスリートの育成や競技力の向上を目指します。」との文言が盛り込まれている。健康づくりに止まらず、競技スポーツも含め、市によるスポーツ推進への注力が感じられる。

全国的には、教師の負担軽減や児童生徒の部活動を含む課外活動時間のあり方について様々議論がなされ、文科省によるガイドラインが策定されているが、柏崎市においては活動時間の制限、適切な休養日・活動時間の設定などを求める動きはないとのことであり、地域事情の差異を感じたところである。

燕市でも、競技スポーツにより力を入れたいという市民の声は根強く、『いきいき課外活動の在り方に係る方針』策定への批判もあることから、柏崎市の今後の動向を注視してまいりたい。

【視察の様子】

① 柏崎市

